

専門職に支えられています!

「こころの駅舎」



あるあるメモ

平成25年4月から始まったがん患者さん・家族・支援者のつどい「こころの駅舎」は、医師・薬剤師・看護師などの医療の専門職に加え、東広島市健康福祉部健康増進課の人的・物的・経費の支援を受けて、多くのがん患者さん、ご家族、支援者の集いとして定着してきました。またイベント型には、毎回「地域がん診療連携拠点病院」でもある東広島医療センターから、「がん相談員」を派遣してくださっています。

安芸市民病院の緩和ケア病棟のことや、医学の進歩により苦痛が少なく治療を受けることができたというお話を聞き、気持ちが楽になりました。また大切な人をおくり、悲しみの中にあっても、「同じような立場の人の力になりたい」と話されたご家族の言葉に、胸を打たれました。さらに「がん」と告知されて頭が真っ白になりながらも、「人は前にしか進めない」と自分に言い聞かせ、病気と向き合ってきたがん患者さんからは、前向きに生きる「人生の選択」をする尊さと強さを教えてもらいました。体験発表は、参加者ひとりひとりにとって、忘れられない大切なおくりものとなりました。

三人のお話を聴きながら、「こころの駅舎」に参加されているその他のがん患者さん・ご家族も、発表者と同様に、「がんと向き合い、がんと共に生きる」それぞれの人生があるのだと思わずにはいられませんでした。また来年も、貴重な体験発表の機会を、是非もちたいと考えています。ご協力よろしく願います。

こころの駅舎 がん患者

“あるある”かわら版



がん患者さん・ご家族のお話



奥様とのかけがえのない
日々を振り返り



自らのがん治療と
人生を振り返り

4月25日(木)に開催したイベント型では、昨年につき、「こころの駅舎」に参加されているがん患者さん・ご家族に貴重な体験を発表していただきました。



素敵なカメラマン Mr. Aratani

素敵なカメラマンさんが、イベント型「こころの駅舎」を支えてくださっています。

今回もベストショット満載です。心を込めて撮影してくださっていることが伝わってきます。

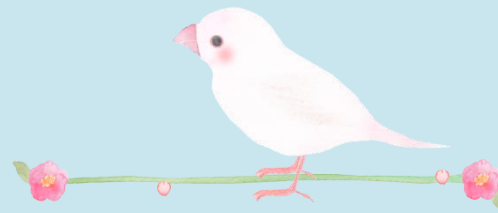
また当日は、野鳥の写真もたくさん提供してくださいました。鳥のさえずりが聞こえてきそうです。

がん治療を続けながらご協力くださっているカメラマンさん、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



がん患者による、がん患者のための読み物

がん患者 “あるある”かわら版



令和元年 5月増刊号

■ 毎月第4木曜日

■ 開催形態

イベント型（4月、8月、12月）

〔時間〕14：00～15：30

定期型（上記以外の月）

〔時間〕14：00～18：00

■ 東広島芸術文化ホール くらら

東広島市西条栄町7番19号



こころの駅舎発行



〈事務局・発行協力〉
一般社団法人 東広島地区医師会
地域連携室あざれあ
電話：082-493-7360
FAX：082-493-7361

